

<全体分析>

試験時間	150 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式

記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

数Ⅲからの出題が少ない (1 題)。

その他トピックス

Ⅱ B 型との共通問題が 2 題、一部共通問題が 1 題あった。

数Ⅲの範囲で選択問題が出題された。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	微分法	Ⅱ	3 次関数の極値 3 次関数の最大値、最小値	やや難
[2]	ベクトル	B	2 つの放物線上に正方形の頂点となる点を定める	標準
[3]	2 次関数 確率	I A	さいころの出た目の数により 2 次関数の係数を決定する	標準
[4]	2 次関数 整数	I A	整数解	標準
[5] (A)	微分法・積分法	Ⅲ	法線の方程式・曲線と直線で囲まれた部分の面積 回転体の体積	標準
[5] (B)	図形の性質 図形と方程式 2 次曲線	A Ⅱ Ⅲ	円に外接する三角形の条件 2 点からの距離の差が一定である点の軌跡	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず全分野にわたり基本を身に付けたうえで、融合問題に取り組んでおこう。

計算量の多い問題にも対応できる計算力を養っておこう。